

歯科診療情報に関わる電子用語集構築とその有効性検証に関する研究

研究分担者 末瀬一彦 大阪歯科大学

研究要旨 本研究の目的は、歯科診療で使われる用語を網羅的に収集した電子用語集を作成し、それらを用いて、身元確認や在宅診療の場での診療情報共有を、過不足なく行えるか検証することである。

研究分担の内容は、歯科技工装置関連用語の文責である。歯科技工に関わる用語は、身元確認に使われるだけでなく、診療所からでた技工指示書にしたがって技工所で実際にものが製作されるというプロセスも視野にいれなければならない。

A.研究目的

歯科診療で使われる用語を網羅的に収集して電子用語集とし、身元確認や在宅診療の場でそれらを用いた診療情報共有が過不足なく行えることを検証すること。

B.研究方法

日本歯科技工士会、大阪歯科大学附属病院、大阪大学歯学部附属病院の病院情報システムで実際に使われている用語を収集し、それらをグループに分けた。

C.研究結果

日本歯科技工士会の資料は、保険診療の対象となっている歯冠修復および欠損補綴における技工物のコードに限られていた。また、大阪歯科大学からは自費の技工物に関する項目が得られた（参考資料：日本歯科技工士会のコード集）。これらに、歯学部附属病院の技工オーダで使われている用語を加えた内容を整理し青木らの標準データセットに内包させた（参考資料：口腔状態の標準データセット）。また、いわゆる技工指示書が院外の技工所に対して行われることを前提に、口腔から分離された人工物に関する情報を別表として整理した（参考資料：歯と合着しない歯科人工物に関する用

語体系）。この表では、義歯、維持装置、人工歯、矯正装置、外科関連装置のグループに分けている。

D.考察

義歯をはじめとする歯科技工装置は構成要素が複雑であるばかりか、その素材にも多くのバリエーションがあり、すべての組み合わせを網羅的に収載することは、コード体系の継続性からも適切ではない。義歯はかならずしも死後も口腔にとどまっていたとはかぎらないことや、院外の技工所に技工指示書を使って情報提供する場合も想定したコード集が必要と考えられる、

そこでこれらを勘案し、複数の表（テーブル）からなるコード集を想定して、それぞれに含まれる用語とした。また、用語を単純に並べたリストではなく、それぞれの用語の意味をもとに階層化した標準コード群を定義できたことから、将来の歯科デジタル基盤を整備するうえで、真に重要な取り組みになると考えられる。

E.結論

保険診療等で実際に使われている歯科技工装置の用語を収集・整理し、身元確認だ

けでなく、いわゆる技工指示書の内容も過不足なく記述できる用語集を構築しつつある。

F.健康危険情報

研究の結果得られた成果の中で健康危険情報に相当するものはない。

G.研究発表

1.論文発表

日本歯科医学会平成 26 年度採択プロジェクト研究 C.歯科医療情報システムの基本構築 画像データを中心とした歯科医療情報標準化－歯科における DICOM の整備と展開－報告書（投稿中）

2.学会発表

口腔診査情報の標準交換規約具体案について：玉川裕夫,勝又明敏,青木孝文,齊藤孝親,鈴木一郎,末瀬一彦.第35会医療情報学連合大会,沖縄.2015/11/1.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他

厚生労働省で開かれた”歯科診療情報の標準化に関する検討会”で”身元確認に資する歯科情報(標準データセット)”が承認された。